

名古屋芸術大学グループ 通信

23
April
2013

パリ・エコール・ノルマル音楽院 ディプロマ取得



国内音楽大学初
在籍しながら、ディプロマが取得できる

ピアノコース／音楽総合コース

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
"ゆたか"であるということ
白木昭嘉
NUA-STUDENT
とにかくがんばりたいって思いました
人間発達学部 子ども発達科 4年
水上茉沙美

Lecture 【レクチャー】
特別講義や講演会など
■〈特別研究発表〉
第15回「私の研究を語る」

International exchange
Activity 【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との交流活動など
■ フライトン大学賞の表彰式と祝賀会

News/topics
ニュース&トピックス
音楽学部
■ 第40回 卒業演奏会
■ 第15回 大学院
音楽研究科修了演奏会
■ 第35回 名古屋芸術大学
オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」
■ 名古屋芸術大学
アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第14回 定期演奏会
■ 名古屋芸術大学
オリジナルミュージカル
「Fairy Tales あなたの知らない
危ない童話集」
人間発達学部
■ 人間発達学部主催
「春を呼ぶ芸術フェスティバル」

美術学部・デザイン学部
■ 第40回 名古屋芸術大学
卒業制作展/作品調評会・卒論発表・
映像作品上映会・記念講演会
■ 第17回 大学院美術研究科・
デザイン研究科修了制作展
■ 美術学部コース展とデザイン学部レヴュー展
学校法人 名古屋自由学院グループ校特集
■ 名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
■ クリエイティブ園
コラムNUA
VS 情報
人間発達学部教養部准教授 加藤智也

Master vs Artist

マスター vs アーティスト
夢中に、流れるままに、
美術学部長 神戸峰男

Information

インフォメーション
■ アワード
■ 出版
■ アート&デザインセンター
2013年度前期展覧会スケジュール
■ 2013年度オープンキャンパス日程



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学・大学院：音楽研究科 学部：音楽学部
美術研究科 美術学部
デザイン研究科 デザイン学部
人間発達学研究科 人間発達学部
■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエイティブ園
■滝子幼稚園
■名古屋音楽学校(名古屋芸術大学 栄 サテライト)



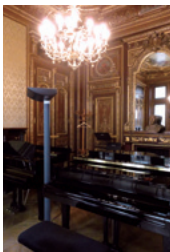
パリ・エコール・ノルマル音楽院

1919年にピアニストのアレクサンドル・コルトーによって設立された音楽院で、フランス国立高等音楽院、パリ地方音楽院などとともに、フランス政府の認可を受けた、現在唯一の私立、高等教育機関。フランス国内外の著名な音楽家が講師を務め、サンソン・フランソワ、ディヌ・リバッティ、パスカル・ドヴォワイヨン、ハリナ・チェルニー、ステファンスカ他、多数の著名な音楽家を輩出しています。コンクール受賞者も、多く輩出しており、ロン・ティボー国際コンクール、ミュンヘン国際コンクール等、大きなコンクールで受賞を重ねています。



ディプロマについて

パリ・エコール・ノルマル音楽院では、6つの段階にコースが分かれ、1、2、3級は「準備コース」とされ、基本的な共通科目を学びます。4級以上は「上級コース」となり、第4級、教育課程または演奏課程のブルヴェ（認定書）、第5級、教育課程または演奏課程のディプロマ（修了証書）取得、第6級、教育課程または演奏課程の高等ディプロマ取得となります。



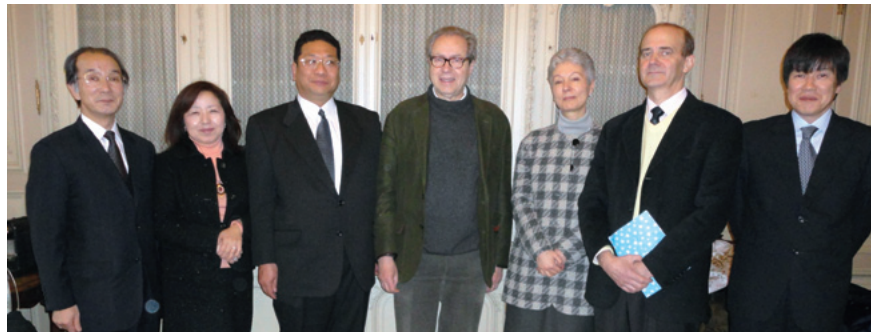
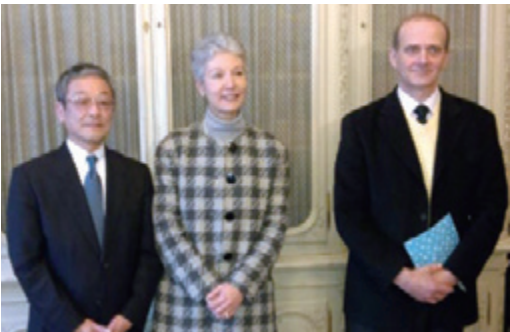
国内音楽大学初
在籍しながら、ディプロマが取得できる

ピアノコース／音楽総合コース パリ・エコール・ノルマル音楽院 ディプロマ取得

2月に、パリ・エコール・ノルマル音楽院にて、名古屋芸術大学との「学術交流協定書締結」、名古屋音楽学校「事業協定書締結」の、それぞれ調印が行われました。

写真左、左から、名古屋音楽学校 山本博司学校長、フランソワ・ノエル・マーキース院長、ジャン・ルイ・マンサール副院長

写真右、左から、竹本義明学長、中沖玲子客員教授、学校法人名古屋自由学院 川村大介理事長、アンリ・ウジェル前院長、フランソワ・ノエル・マーキース院長、ジャン・ルイ・マンサール副院長、山田敏裕音楽学部長



長い歴史を誇る、パリ・エコール・ノルマル音楽院のディプロマ（卒業証明書）を、本学の講座を受講することで取得できるカリキュラムが、今年度から始まっています。これまで、本学の卒業生たちの場合は、卒業後にさらに研鑽を積みディプロマに挑戦して取得することが多かったのですが、今後は、さらに多くの学生に門戸が開かれることになりました。今回は、この新しいカリキュラムについて、これまでパリ・エコール・ノルマル音楽院との学術交流活動に努めてきた山田敏裕学部長と、以前からパリ・エコール・ノルマル音楽院と提携し、ディプロマ取得の講座を開設していた名古屋音楽学校の山本博司学校長にお越しいただき、お話を伺いました。



名古屋芸術大学
音楽学部長
山田敏裕 教授

桐朋学園大学卒業、ドイツ国立エッセン音楽大学を経て、国立ベルリン芸術大学卒。
故松岡晴子、松岡三恵、故大島正泰、クラウス・ヘルヴィツヒの各氏に師事。
相愛大学、同志社女子大学元非常勤講師。
愛知県常滑市在住。



名古屋芸術大学
×
名古屋音楽学校
グループで、より深い交流を



名古屋音楽学校
山本博司 学校長

武蔵野音楽大学音楽学部器楽科
(トランペット専攻) 卒業
ヤマハ株式会社で管楽器活動、学校音楽教育や
社会教育活動などの普及業務に携わり、日本と
欧米との管楽器教育や文化交流において多くの
功績をあげる。



—まずは、今回の仕組みについて、経緯を教えてください—

山田教授（以下、山田）：本学の経緯から言えば、2004年に名古屋芸術大学とパリ・エコール・ノルマル音楽院が、学術交流協定を結びました。それ以来、先方の教授に来ていただいたり、こちらの学生が研修へ行ったりということが始まりました。交流協定というものは、一般的に3年とか5年ごとに更新していくものなのですが、企業契約のように期間に関しては厳密なものというのではなく、学校同士の交流協定というのは実質の交流が続いていけば延長していく、こういう性質のもので。それで、昨年の6月に前回の協定期間が満了していました、協議し直す必要があり、今年の2月に、理事長、学長、中沖玲子客員教授、名古屋音楽学校の山本学校長、私の5人でパリに行きまして、協定延長の調印をしてきたわけです。また、本学とは別に、名古屋音楽学校が以前からパリ・エコール・ノルマル音楽院の国内唯一の提携機関としてディプロマを実施していた経緯があります。

その状態の中で、昨年4月に名古屋芸術大学のグループの一つとなったのを機に名古屋芸術大学でもディプロマ取得をやっているのではないかということになり、交流をより濃いものにしていこうと。それのためのシステムを整備して、今回の交流調印の際にも、その文言を入れ調印してきました。

山本学校長（以下、山本）：パリ・エコール・ノルマル音楽院の教授陣はプライベートで、日本の首都圏や京阪神の音楽大学に特別講座やコンクールの審査員として度々来日されていました。その機会に、他の音楽大学も認定機関にして欲しいと要請していたようです。今回、名古屋芸術大学と名古屋音楽学校がグループとなり、これまで名古屋音楽学校がディプロマ取得や留学生を送り出してきた実績を前面に出して、「事業協定書」を交わしました。これまでは、親書的なものでありましたが、名古屋音楽学校としても初めて協定文書を交わしました。今回はいい意味で、名古屋音楽学校と

名古屋芸術大学が、協定の中身は少々違うのですが、グループとしてパリ・エコール・ノルマル音楽院に対して交流を一緒に進めようという合意ができました。

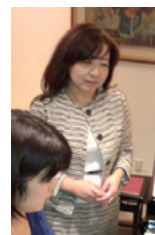
—ディプロマを取得できる科目はどうなりますか？—

山田：ディプロマに関しては、ピアノコースと音楽総合コースのピアノ奏法をメインにしている学生に限定しています。メインの実技はパリ・エコール・ノルマル音楽院の教授の指導を受けなければいけないという大前提がありまして、今実現できるのはピアノだけという状況なのです。本校の客員教授の中沖先生が、パリ・エコール・ノルマル音楽院の教授でもあり、パリ・エコール・ノルマル音楽院の教授の指導を受けられるという条件を満たすのはピアノだけとなります。

—パリ・エコール・ノルマル音楽院で学ぶことにどんな違いがありますか？—



パリ・エコール・ノルマル音楽院教授
名古屋芸術大学客員教授
名古屋音楽学校特別講師
中沖玲子



愛知県立芸術大学卒業後、パリ国立高等音楽院に入学。ピアノ科、室内楽科共にブルミエプリ（一等賞）を受け卒業。
ラヴェルの唯一の直弟子ベルルミューテル氏のもとで研鑽を積む。
また、フランスを代表する作曲家デュティエールに直接指導を受け、氏のピアノ作品集をフランスにてCD録音、好評を博す。
パリ国際コンクール2位グランプリ、エビナル国際、セニガリア国際コンクール入賞。
卒業後、パリを中心に演奏活動を行い、イギリス・ハレ交響楽団のプロムスシリーズに招かれる等、ヨーロッパ各地のオーケストラとも共演し、フランス国営放送にも出演する。
また、フランス、イタリア、ベルギー等のマスターコース指導に招かれる。
ブーランク国際、ソフィア国際、サン・ノム・ラ・プロテッシュ国際ピアノコンクールなどの審査員を務める。
現在、パリ・エコール・ノルマル音楽院教授、名古屋音楽学校特別講師、名古屋芸術大学客員教授。

ディプロマ取得の手順

ディプロマ取得の
申込

オーディション
(自由曲1~2曲用意)

合格者は
パリ・エコール・ノルマル音楽院の
学生としても登録

山田：日本の大学教育というのは、単位数があってそれを取得したら卒業という形ですね。欧州の場合は、取得しなければならぬ科目というのはもちろんあるんですが、私個人としてはドイツへ留学していましたが、単位数の数、それは見たことがないんですね。この科目は履修しなければならないという縛りはありますが、単位の数字を足していくつになったから卒業というものはありません。まず、その点に違いがあります。履修のことから言えば、パリ・エコール・ノルマル音楽院が求めている卒業資格を認可する科目と、名古屋芸術大学で履修する科目で、重なる部分についてはそのまま認められることになりました。しかし、名古屋芸術大学になかった科目がいくつかありまして、その整備の必要があり、昨年度、半年ほどかけて、その科目を開設するためにカリキュラムの変更を実施し今年度からスタートしました。

具体的にどんな科目が新しくなりましたか？

山田：初見演奏、それから室内楽。大きく言ってこの2つが、ピアノコースのカリキュラムになかったものですから、それを整備しています。パリ・エコール・ノルマル音楽院は、アンサンブル能力というもの

を非常に重視しています。ピアノコースの中には、重奏法というピアノ2台での科目はあったのですが、室内楽という限定したもののための科目はなかったんです。そのため今回新設しました。重視している科目なので1年だけでなく、3年計画で科目を充実させていこうと考えました。1年目は弦管打の普通の個人レッスンの伴奏者として参加します。2年、3年になって、弦管打では室内楽の授業を以前からやっていますので、そこでピアノを交えたアンサンブルの勉強を2年間やる。このことは弦管打の学生にも、メリットが出るようなカリキュラムになると考えています。

履修はどうなるんですか？

山田：選択科目としてディプロマを念頭に入れていない学生も履修できます。ディプロマを取得しようとする学生は必須となります。メインのレッスンなんですが、これは人数によりますが、ディプロマに登録すると、一応、1年で修了するシステムです。なので、例えば1年生でディプロマを取ろうとした場合、希望者の数によっては、待ってもらうこともあります。実技の能力だけで判断して登録できるわけではなく、学年なども考慮して調整していかないと考えています。

全て、日本で取得できてしまうのですか？

山田：修了試験についてはパリで受けることになります。

山本：これまでの名古屋音楽学校の場合は、パリ・エコール・ノルマル音楽院のスタートが10月からなんですね。それに合わせて、春から全国の音楽大学や関連機関などにパンフレットをお配りし、受講者を募集しています。それで、申し込みしていただいたところから授業をスタートしていきます。そして、ディプロマを受ける前にオーディションを行います。ディプロマには級があって、能力からどの級が適切かをオーディションで判断します。そして5月にパリ・エコール・ノルマル音楽院の副院長が来日して、1次試験を行います。その試験に合格した学生については、6月に渡仏して本試験を受けていただきます。過去には、1次試験で適さないと判断された人もいらっしゃいました。本試験では、昨年の場合、ある級では40人くらい受験してそのうち半分くらい合格しました。合格すると、ディプロマ取得の権利を得ます。名古屋芸術大学の場合、まだ在学中の場合に必要な科目を修了し、卒業というタイミングで、ディプロマ取得の修了証を発行するという流れになります。

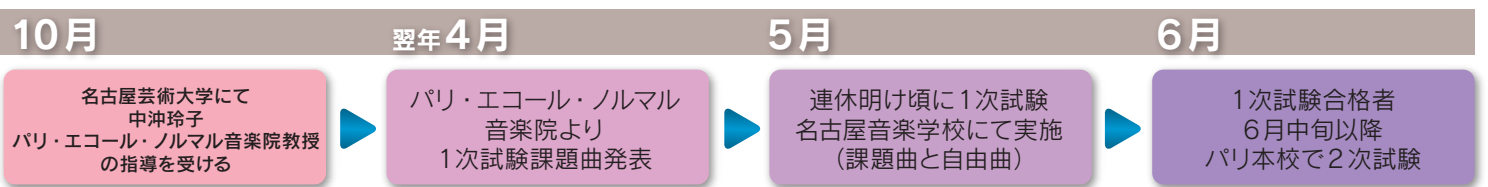


シテ・デザールについて

1957年にフランス文化省とパリ市によって、音楽・絵画・彫刻などの芸術家にパリでの研究活動のために宿泊施設を提供することを目的に設立された財団で、1965年にパリ市から土地の提供を受け、最初の宿舎が建設されました。現在では318室の個室（アトリエ兼宿泊施設）があり、世界約50カ国からさまざまなジャンルの芸術家が集まり、創作・研究を展開する環境として利用されています。



名古屋音楽学校が保有し留学生に提供している部屋の一例。



一留学についてはいかがですか。本試験だけといわずに、留学できれば、なお良いですよね？

山田：もちろんそれは理想ですね。ただ、パリは住宅事情が非常に厳しく、学校でもあまり練習ができないんです。レッスン室が空いている時間に少し練習できる程度で、しっかりと計画を立てた練習は学校だけでは実質的にできません。そうするとアパートに練習環境が必要になりますが、金銭的にも非常に大きな負担がかかります。そういう面でいえば、国内でディプロマが取得できるということはもの凄く大きなメリットです。

山本：個人で留学した人もいますが、大変だったと思います。住居のことや生活、授業の具合もわからないまま行くわけですからね。名古屋音楽学校ならではの特色の一つに、シテ・デザールという宿泊施設があります。フランス文化省とパリ市によって、芸術家に宿泊施設を提供することを目的に設立された施設で、管理が行き届き良い環境なんです。名古屋音楽学校では4部屋保有しておりまして、ディプロマを目指し留学したいという方には、優先的に提供しています。また、ピアノは国内でディプロマを取得できるわけですが、他の楽器についてもパリ・エコール・ノルマル音楽院の

側から今後期待されていることがあります。管楽器、弦楽器、声楽など、他の科目についても、ディプロマはすぐにはできませんが、留学の窓口を広げようと考えています。ピアノの試験のときに他の楽器も、副院長に聴いてもらってそれで判断し、留学という窓口を作ろうと進めています。留学を希望する学生にとっても良い機会と考えています。

山田：練習の仕方ですが、まず環境がずいぶん違うんですね。ヨーロッパ全体にいえませんが、練習もレッスンも、もっと響きの十分にある空間でやるんです。単純なことを言えば、天井高だって、一般的な日本の練習室の倍はある。音楽というのは、空間の響きというのが大事で、それが勉強していく中で養われます。日本の狭い住宅の中で練習すると、音そのものよりもどうしても技術を優先してしまうようになります。そうではなくて音楽というのは、人が聞いて気持ちいいということが大切です。そういう響きを自分自身が感じるの、そういう環境で研鑽を積み重ねなければなりません。それがもの凄く大きな違いですね。音が合ってればいいだけじゃなく、その音その時点でどんな意味を持つか、そんなことを考えるようになります。環境が、自分の姿勢に大きく影響しますね。

一この制度が始まってどんなことを期待していますか？

山本：名古屋音楽学校としては、パリ・エコール・ノルマル音楽院の副院長が5月に来日してオーディションおよびディプロマの1次試験を行います。そして留学して勉強しようとする学生の中で、特に優秀な方に授業料が全額免除になる奨学金を出すことになりました。奨学金制度は、名古屋音楽学校が、パリ・エコール・ノルマル音楽院から与えられた特典なので、名古屋芸術大学の場合は今のところできないんですが、近い将来、同じテーブルにのってできるかなと、そうなって欲しいと考えています。

山田：こういう素晴らしいものが、身近になることによって、更に視野が広がって欲しいですね。ピアノだけでなく、与えられたものを全て吸収できていくような、そういう学生が増えて欲しいです。自分のスタイルを持つのはいいことですが、それに凝り固まってしまうのは困ります。広い世界を知って、受け入れ、その中で判断していける、客観的な目で自分を見られるような学生が増えて欲しいです。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



【住宅設計】
a: 清見のいえ 2013
b: 絵本のいえ 2010
c: お月見のいえ 2012
d: 絵本のいえ 2010



【店舗設計】
e: CONPECHI (カフェ) 2007
f: bistro CERCLÉ 2010



http://www.piu-design.com



Vol.47
NUA-OB

白木昭嘉

(しらかき あきよし)
建築家/ビュウデザイン 代表

1999年 美術学部デザイン科卒業
2001年 卒業後、勤めていた店舗設計会社を退職
イタリアへ渡りデザイン学校へ入学
2004年 独立、ビュウデザイン設立

岐阜市にて設計デザイン事務所、ビュウデザインを設立。数多くの店舗、住宅設計を手がける。自宅兼事務所はもろろ自身の設計で、ユニークな間取りと穏やかな空間が特徴となっている。



現在は、自身を含め5人のスタッフで事務所を切り盛り。プロダクトデザイン、ガーデンプラン、クラフトなどジャンルにとらわれることなく、活動の幅を広げている。

“ゆたか”であるということ



これまでの仕事を物件ごとにまとめた写真集。「お施主さんに渡したりしているんですけど、毎回作るようになったんです。最初の頃は時間があって丁度ですけど、今は…(笑)」



1階のリビングダイニング 大きな薪ストーブとコンクリート敷き。設計、家具、置いてあるもの、部屋の隅々まで配慮が行き届いている。

柳宗悦は著書「手仕事の日本」の中で記している。「このままですと手仕事は段々と衰えて、機械生産のみ盛になる時が来るであります。しかし私どもは西洋でなした過失を繰返したくありません。日本の固有な美しさを守るために手仕事の歴史を更に育てるべきだと思います。」柳が記してから60年以上が過ぎた。どこにでもあった民藝はわずかに継承される伝統工芸になり、ありふれた雑器は高価な工芸品となってガラスケースの向こう側へ行ってしまった。そして、柳が危惧したとおり、世の中には機械によって作られた画一的な製品と建物が幅をきかせている。柳の考えに違っていたところがあるとすれば、機械製品にも良いものがあるということ。ファストファッションの服や製造ラインから産み出される自動車の機能に、画一性という点以外に不満を持つ人もいない。不満はない、では世の中が“ゆたか”になったかと問われれば、素直には頷きたい……。



ユニークな建物は、2階に玄関があり設計事務所、1階が住居となっている。ドアも床も天然の木材、感触も音の響きも柔らかい。窓枠も木製で、アルミサッシではない。木製だが、昔風ではなく、モダンで重厚な作りとなっている。「天気によって窓枠が反ったり、すきま風が入ったりするんです。でも、それで工夫する。戸によっては、開け閉めにコツが要ります、引っかけたりして、でも、それが楽しいんです。お施主さんにもいつ



も説明するんですが、メンテナンスフリーな素材はないんです。手がかかるから愛着がわくし、生活の中に、自分しか知らない小さい楽しみが産まれると思うんです。こういったことをお施主さんが解ってくれて、皆、楽しんでくれています」

独立した頃は、店舗デザインの仕事が多かったが、最近は住宅が増えてきているという。「不景気でお店を始める方が減ってしまったように思います。同世代のお客さんが多いため、最近では住宅が増えてきているのかなと」依頼に来る人の誰もが、画一的なメーカー製の住宅に不満を持っている人なのだそう。ただ、出来合いの製品を買って、そのまま使うことだけへの不満ではなさそうでもある。「物質的な豊かさにはあまり魅力を感じていないのかもしれませんが。僕個人も、ゆとりある時間や、自然を意識した暮らし方に豊かさを感じています」

話を伺っていると、事務所のパートナーでもあり、インテリアコーディネーター、二級建築士の資格を持つ奥様が、声をかけた。「平田先生(平田哲生教授 デザイン学科主任)の影響がすごく

大きいんですよ」心地良い空間のためか、ごく自然に話は弾む。「平田先生のご自宅で、毎年、年末に餅つきがあるんですよ。そこに学校関係者や多くの人が集まるんですが、どちらかというと近所のおじさんとか、おばさんが来ています。そこでのコミュニケーションがすごく楽しい」

建築やデザインの目的は、便利さや機能の高さを追求しているだけではなく、コミュニケーションにあるという。「この事務所を作ったことに住むと決めてから、この地域の問題、例えば、独居老人のこととか、子どもが少なくなっていることとか、問題意識が大きくなってきたんです。自分の周りの小さなコミュニティだけでも、ちょっと楽しい感じになるといいなと。そんな気分が町全体に広がって行けばもっといいし、なにかそういう拠点になるような、そういうことをやっていきたいと思っています」



「家はそんなにお金をかけて作らなくていいんです。でも、それがあって周りの人たちに、今までとは少し違うスイッチが入って、“ゆたか”になっていく。それが面白いんです」

柳宗悦は手仕事の優れる点をこう述べている。「民族的な特色が濃く現れてくると、品物が手堅く親切に作られることであります。そこには自由と責任とが保たれます。」手仕事は消えてしまったわけではなく、形を変えながら今に生きています。



とにかくがんばりたいって思いました



Vol.48
NUA-STUDENT

水上菜沙美

(みずかみ まさみ)

人間発達学部 子ども発達科
4年



2月の小学校体験活動の写真です。子ども達と楽しく会話をしながら給食を食べます。子ども達が「先生、あのね」と話してくれて、とても嬉しかったです。

年間には忙しかったですが、いろんな経験ができました。

-小学校はボランティアなんだ。

大学近隣の小学校へボランティアに行かせていただきました。私は2週間、特別支援学級で子ども達と過ごし、先生方に指導していただきました。ボランティアでは、子どもにマンツーマンで付いて支援したり、遊んだり、勉強も教えてました。

-特別支援学級、大変だったでしょう？

そうですね、大変でしたが、とてもやりがいを感じました。分からないこともあって不安でしたが、子ども達と向き合っていくと、とにかく『がんばりたい』って思いました。あと小学校の先生たちが、やっぱりすごいんです。子どもとの接し方や指導法にいろんな方法や工夫があって、ひとつひとつのことを私たちにもすごく丁寧に教えてくださって、とても勉

強になり感謝しています。特別支援学級は、子どもたちがそれぞれ障害を持っていますが、それも個性としてとらえ、どういった支援が合っているか先生方は常に考えています。子どもたちの見方や理解の仕方、そのようなことも学ばせていただけたので、とても勉強になる2週間でした。

-ずっと小学校の先生になりたかったの？

最初は保育士志望でした。小さい頃、優しかった保育園の先生が大好きで憧れていました。でも、大学へ入学して、1年生の時に小学校体験活動に行き、考えが変わりました。小学生は、同じ学年でも、先生やクラスによって、子どもたちが全然違って見えます。いい意味で先生の影響を受けやすく、そういったところがすごく面白く、また、感動しました。内面的にも変化してゆく6歳から12歳という年齢層も、面白いですね。

入学当初は保育士と幼稚園、小学校3つの免許が取れる大学で3つとも取って、どこへ進んでもいいかと思っていました。でも、実習やボランティアの経験を通して小学校に魅力を感じたので、小学校教諭になりたいと思いました。

-小学校だと、ピアノとか大丈夫？

大学入ってから始めて、苦戦しています。少し苦手ですね。でも、苦手なことも逃げずに上手に付き合っていくたいです。

-もう春休み？ (3月にお話を聞きました)

そうですね、無事に4年生になれます (笑)。

-人間発達だと先生だね。何の先生になりたい？

小学校の先生を目指してます。でも、資格は、保育士と幼稚園と小学校の3つとも取る予定です。3つの資格を取るので実習が多くて、特に3年生になってからは忙しかったです。2年生の時に保育実習をやった、3年生で幼稚園実習と介護等体験実習、特別支援学校、あとは施設実習があって……、プラス、大学の小学校体験活動というボランティア！ 2週間、小学校へ行かせていただきました。3年生の1

水上さんに聞きました。

06:50 起床
ご飯を食べて学校の用意をします。

07:50 家を出る
電車に乗って大学に行きます。車内では本を読んでいます。

9:00 講義
空き時間は図書館やテニスサークル、大橋先生の研究室にいます。教員採用試験に向けて勉強をしています。

12:10 昼食
友だちと学食で食べます。

13:10 講義
空き時間は勉強しているが、大橋研究室で友だちとゆっくりしています。

16:30 休憩・勉強

23:30 就寝
明日の用意をして、日記を書いてから寝ます。

夕飯とお風呂。
テレビドラマの動画を観たり、家族やペットとゆっくり過ごします。

20:40 帰宅
19:50 電車で乗る

電車通学なので、靴はベタベタです！
乗さず履き替えます…。

ファッションチェック!

持ち物検査

旅行大好きです

アルバイト

大学は忙しい?
小学校の先生を目指して、毎日猛勉強中!!

さすが先生志望、教員採用試験の参考書が目まぐるしく引く。
「参考書は、ずっと電車で読んでます」

さすが先生志望、教員採用試験の参考書が目まぐるしく引く。
「参考書は、ずっと電車で読んでます」

アルバイト
●アルバイト 7万円/月
●アパート等家賃 0万円/月
(実家から通学片道約1時間)

アルバイトは、地元ファミレスでやっています。最近、塾の講師のアルバイトも始めました。小学生と中学生を教えます。難しいけど、子どもとの接し方、授業の仕方など、勉強になります。

Lecture

【レクチャー】

特別講義や講演会など

〈特別研究発表〉

第15回「私の研究を語る」

研究テーマ

語学、語用論、異文化間
コミュニケーション

日時

2013年2月20日(水)
18:00~19:30

会場

東キャンパス 1号館702教室

講演者

キアラ・ザンボレルン音楽学部
教養部会准教授

主幹

全学図書委員会

私の専門分野は言語学です。言語学は、理論言語学と応用言語学に区別されています。その言語学が私の研究テーマなので、そのまま私の教育に繋がっています。ですから、私の研究を語るということは、私の教育について語ることなんです。私の研究テーマは「言語教育」で、なかでも、今回お話しするのは「語学、語用論、異文化間コミュニケーション」についてです。具体的には、日本におけるイタリア語学。そして、語用論では、イタリア語と日本語を比較しています。さらに、異文化間コミュニケーションで、イタリアと日本との違いを取り扱っています。それぞれが関係ない分野ではなく、繋がっていて、重なることも多いジャンルです。

語学について

最初に、私の取り組みからお話しします。私は日本人がイタリア語を学ぶための教材として、新しい教材を作るプロジェクトに参加しました。2010年~2011年には、イタリア文化会館からの提案で「OPERA PRIMA」という新しい教材を、4人のイタリア語教員と一緒に取り組みました。これは、ヨーロッパ言語共通参照枠のガイドラインを踏まえ、イタリア外務省主催でイタリア語コミュニケーション能力を高める教材を作成するプロジェクトです。日本で多く出版されている教材は、文法を中心にしたものが殆どでした。私たちが手がけた教材の特徴は、イタリア語を効果的に学ぶため「より優しく」、「より楽しく」を目標にしました。さらに、bimodalità

(二峰性)の原則に基づいた教材に仕上げる依頼を受けていました。このbimodalitàは、カナダ人言語学者のマーセル・ダニーシが唱えた理論です。

外国語を学ぶときには、右脳と左脳をバランスよく使うことが大切です。コミュニケーションなど、ナチュラルアプローチを行う時は、右脳を活発に使います。翻訳や文法を学ぶ時は、左脳を多く使っています。この右脳と左脳を活性化すれば、学ぶことが容易になります。言語教育での脳の主な活用は「見る」、「聴く」、「話してみる」、「文法の規則を勉強する」の4つ。学ぶ際にはこの順番も大切です。右脳が活発に働く「見る」から、左脳へと移る「文法の規則を勉強する」の順で学びましょう。このセオリーに則り、私たちの作った教科書を開くと、イラストや写真などがたくさん使われています。従来、日本で出版されている第二外国語の教科書はほとんどモノクロばかりですが、この教科書では「見る」を高める作りになっています。もう1つの特徴は、この新しい教科書には、まったく日本語が使われていないことです。

次に、2011年から2012年に取り組んだのは、イタリア語の発音トレーニングを目的にした比較音声学の教科書です。従来からのイタリア語の発音の本は説明ばかりで、正しい発音を身に付けるための練習問題や、実際の発音を聴くためのCDなどが付いていませんでした。このプロジェクトではその点を注意して取り組みました。アナウンサーの様な完璧な発音の標準語を学べるCDも作成しました。音声記号も学べ、イタリア語と日本語の母音及び子音の違いを比べることもできます。さらに、いろいろな練習問題も用意しました。この教科書は出版されたばかりなので、来年度は本学の大学院で使いたいと考えています。

語用論と異文化コミュニケーション

語用論とは、言語表現とそれを用いる使用者や文脈との関係を研究する分野です。語用論では意味を研究しています。意味は文脈のなかで決まっているので、文脈が無ければ、意味はあまりない。例えば「Fa freddo, eh?」の訳は「寒い?」です。しかし、この発言は「(寒いから)暖炉を付けてもらえますか?」など、間接的な依頼かもしれません。また、「(寒いから)外には出かけたくない」といった断わりだったり、皮肉的



な意味なども考えられます。このように、文脈によって意味が決まることを理解する必要があります。語用論の観点では、言葉は単なる音や一つの意味ではなく、言葉はアクションです。私たちは言葉によって、慰めることもできれば、傷つけてしまうこともあるのです。場合によっては、言葉によって世界を変えることもできるのです。言葉って本当に素晴らしいですね。

その語用論で、私が研究対象にしたのは、ビデオ教材の使用とその効果についてです。選んだビデオ教材は、イタリアで人気の映画『Manuale d' amore』(邦題:『イタリア的、恋愛マニュアル』)です。この映画は4つのエピソードからできています。この第1エピソードは一般的なイタリア語の授業でもよく使われています。教材は、映画の中で行われる、若いイタリア人男性のコミュニケーション方法を伝える、ケンカするなどです。授業で使ってみて驚いたのは、日本の学生たちは、主人公の男性に「ストーカーばい」や「気持ち悪い」。主人公の女性に「カッコいいけど冷たい」、「彼に対して失礼」などのイメージを抱いた点です。私はそこまで考えたことが無かったので、学生たちの感想がショックでもあり、コミュニケーションスタイルの違いを実感することになりました。「なぜ日本人の学生たちがこのように感じたのか」をデータにまとめ、英国マンチェスター大学で開催された「第12回国際語用論学科」で発表しました。次に、同じ映画をイタリアのパルマ大学の学生にも観てもらい、アンケートを取り、比較して、その違いについて研究を進めました。さらに、スイスのフリブルグ大学でこの研究を発表する機会にも恵まれました。幸運なことに、いろいろな国籍の先生や学生から、アドバイスを受けることができました。

この研究で明らかになったのは、人間は言葉でコミュニケーションする時、文法に書かれていない規

則にも従います。その規則は、文化的な価値観に基づき、言語イデオロギーを形成します。文化圏が異なれば、言語イデオロギーも異なってきます。さらに、イタリア人学生と日本人学生のアンケートの答えと感想を比較した結果、次のような異なったパターンが際立ちました。

- ①日本人学生にはイタリア映画の主人公はあまりにも断定的に感じられた。
- ②主人公の感情や意見の伝え方はあまりにも直接的と感じられた。
- ③主人公の積極的な行動はあまりにも押し付けがましいと捉えられた。

例えば、日本人学生の感想では、「遠慮」という言葉や「相手の気持ちを傷つけないように気をつけなければならない」という意見がよく見られました。一方、イタリア人学生の感想を見ると「明示的なコミュニケーションスタイルの方が望ましい」という傾向が現れました。ところが、文脈によっては、どのコミュニケーションスタイルに従うべきかについての考え方は、最終的に個人差があることも分かりました。例えば、映画の主人公のコミュニケーションスタイルが、とても気に入った日本人学生もいました。したがって「言語や文化によって、コミュニケーションスタイルは大きく異なることがある」という意識を持つことが大切です。もちろん、違った文化的価値観や、異なった言語イデオロギーを必ずしも受け入れる必要はありません。しかし、自分の文化圏におけるコミュニケーションのパターンは、一つのパターンに過ぎないことを意識する必要があります。そうすることで、相互尊重に基づいた異文化間理解が生まれます。

この結果は、2011年11月6日に東京のイタリア文化会館で行われたイタリア語研究の集いや、同年11月19日の第121回イタリア言語・文化研究会例会(早稲田大学イタリア研究所)などで発表されました。

これからの取り組み

私はイタリアの映画監督で、俳優、コメディアン『ロベルト・ベニーニ』の研究を行っています。ベニーニの映画に共通するユーモアは、異文化入門の教材にとっても適しています。そのため、私はベニーニの3つの映画『ライフ・イズ・ビューティフル』(1997年)、『ピノッキオ』(2002年)、『人生は、奇跡の歌』(2005年)を日本語字幕付きで紹介しています。将来的には、ベニーニの映画の手引き書を出版したいとも考えています。その、ベニーニの人生観を説明するとすれば、やはり“ライフ・イ

ズ・ビューティフル”に集約されていると考えます。彼の映画のタイトルでもある“ライフ・イズ・ビューティフル”は日本語訳すると「人生は美しい」となりますが、イタリア語の本題は“La vita è bella”。bellaは「美しい、キレイ、美味しい、素晴らしい」など、とてもポジティブな言葉です。ベニーニは「人生は素晴らしいものである」という肯定的な見方をしています。また、ライフ=命という意味でもあり、「命は美しいものである」というメッセージも込められていると考えています。“You are beautiful!”「あなたは

美しい」、「人間の命は宝物」だとも考えています。ベニーニは「現実には肯定的であり、困難を乗り越えるエネルギーを持って問題に立ち向かえ。人生の美を見逃さないで美を探したら、きっとそれが見つかる」と映画『ライフ・イズ・ビューティフル』の中で伝えています。ベニーニの『ピノッキオ』も学生たちにも人気がありますが、多くの皆さんはディズニー映画の『ピノッキオ』の印象が強いのではないでしょう。私にとってのピノッキオは、やはり1883年に出版された絵本『ピノッキオの冒険』(カルロ・コッローディ著)。

このピノッキオからのメッセージは「自由と責任」です。人は善と悪の選択をいつも求められ、選ばなければいけない。このピノッキオの冒険は、幼い人間の成長の物語で、ピノッキオは常に脱線し、間違った選択をして失敗を重ねます。でも、やり直すことはできる、その気持ちさえあれば、出発点に戻ることができる。というメッセージが込められています。人間が最終的に何を求めているかを考えた時、「安らぎ」、「自分の夢の実現」、「愛」。このピノッキオの著者コッローディは「幸せ」だと考えていたのではないでしょう。

International exchange
Activity
【国際交流活動】
海外の学術姉妹提携校との
交流活動など

2012年度
ブライトン大学賞の
表彰式と祝賀会

2012年度ブライトン大学賞の入賞者が決定し、その表彰式と祝賀会が2月22日(金)、名古屋市中区栄の名古屋東急ホテルで行われました。グランプリ1名、優秀賞1名、奨励賞2名と佳作6名の合計10名の入賞者が表彰されました。

「ブライトン大学賞」は、本学と姉妹校提携を結んでいる英国のブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年、相互の交流を深めています。

本年度は、ブライトン大学からProf. Karen Norquay (美術・デザイン・メディア学部学部長)とDr. Lara Perry (人文学部・主任講師)の両氏が来日され、卒業制作展の行われた3会場(本学西キャンパス、名古屋市民ギャラリー矢田、

愛知県美術館)を廻って作品を審査し、受賞者が決定されました。

表彰式では、冒頭、本学竹本学長から歓迎の挨拶があり、続いて、Karen Norquay教授からブライトン大学を代表してお礼の挨拶と、今回審査した学生達の作品についての講評がありました。

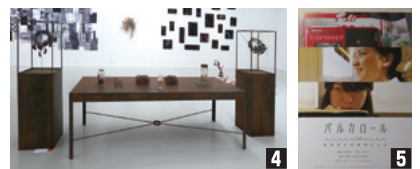
続いて、Dr. Lara Perry氏からも挨拶が行われ、その後、両氏から、受賞者一人ひとりに賞金と表彰状が手渡されました。

グランプリを受賞した川崎和美さんの「法則性と偶然性Ⅲ」に対しては、技術と優雅さによる昆虫彫刻の複雑なインスタレーションの実現が評価された作品であるとして、「生命と腐敗、美と嫌悪感、科学的な疑問と装飾的な衝撃の潜在的に矛盾しているテーマへの言及を受け入れた、カマキリの複雑なインスタレーションの理路整然とした具現化に感動しました。インスタレーションのすべてが、技術力と完全に対する配慮により完成されていました」との講評でした。

また、優秀賞の山田麻由さんの「バルカロール」については、明確なアイデアがあり、大掛かりで、プロフェッショナルに仕上げられた映像であるということが認めら



1勢揃いした今回の受賞者たち
2審査の総評と受賞作品の講評を述べるKaren Norquay教授
3グランプリの表彰を受ける川崎和美さん
4川崎 和美「法則性と偶然性Ⅲ」
5山田 麻由「バルカロール」(映像作品)



れた作品であるとして、「熱意とプロジェクトのスケールの大きさに驚きました。複雑で、感動的な作品が、とても優雅に、そしてプロフェッショナルに完成されていました。ことばがわからなくても、概念の明快さと映画の具現化を証

明するストーリーは理解ができました」との講評がありました。

受賞者全員に表彰状と賞金が授与され、表彰式は終了しました。

その後、名古屋芸術大学後援会会長の挨拶と乾杯で祝賀会が行われました。

2012年度ブライトン大学賞受賞者一覧

賞	コース	受賞者氏名	作品名
グランプリ	メタル&ジュエリー・デザイン	川崎 和美	法則性と偶然性Ⅲ
優秀賞	メディア・デザイン	山田 麻由	バルカロール
奨励賞	ヴィジュアル・デザイン	加藤 大貴	名は体を表す
		宇城 愛里	ごめんね
佳作	洋画2	波部早紀子	鱈目／飽和
	ガラス	三ツ井美帆	Serendipity
	版画	富田 典余	リボンを返したくて
	アートクリエイター	本間恵里加	ゆきやなぎ
	スペース・デザイン	加藤 千恵	森を想うー成形合板と間伐材を使ったツールー
	テキストスタイル・デザイン	神農 有美	階位女子個室

News
& ニュース&トピックス
Topics

音楽学部
第40回 卒業演奏会

2013年2月28日(木)・3月1日(金)の両日、名古屋市中区伏見の三井

住友海上しらかわホールで、名古屋芸術大学音楽学部の第40回卒業演奏会が行われました。

卒業演奏会は、出演者にとっては大学4年間の学業の締めくくりとなる最後の発表の場であり、音楽学部にとっては、各コースの教育成果を公表する特別な演奏会といえます。本年度は、この春の卒業試験で優秀な成績を取った学生が、初日の28日に12名出演。二日目の1日には作品発表1名を含



めて12名、合わせて24名が出演し、独奏や独唱のかたちで舞台上に臨みました。

指導教員をはじめ家族や友人が見守る中、日頃の練習の成果を十分に発揮するすばらしい演奏を披

露してくれました。

また、優秀卒業論文が公表され、音楽文化創造学科音楽教育コース

で2名の優秀者が発表されました。

音楽学部

第15回 大学院
音楽研究科修了演奏会

2013年3月7日(木)・8日(金)の両日、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第15回修了演奏会が、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。

この演奏会は、今春大学院音楽研究科修士課程を修了する院生全員が、オーケストラ/コレギウム・アカデミカと共演する構成で、独奏・独唱とオーケストラが織りな

す色彩豊かな演奏が特色となっています。コレギウム・アカデミカは本学大学院の演奏研究グループで、大学院音楽研究科、大学音楽学部

に所属する教員・卒業生を中心組織されたオーケストラです。濱津清仁氏(2004年ウィーン学友協会黄金ホールにて、オーストリア・ウィーン放送交響楽団を指揮し、鮮烈な楽壇デビューを飾る。福島県生まれで、将来を期待される逸材として注目を集めている指揮者)が指揮を執り、ソプラノ・バリトンの独唱や重唱、ピアノ・チェロ・打楽器の独奏など、各研究領域における熱演が2日間



1 ピアノ独奏
2 チェロ独奏
3 ソプラノ独唱
4 打楽器独奏
5 バリトン独唱

ノ・チェロ・打楽器の独奏など、各研究領域における熱演が2日間

に亘って繰り広げられました。プロの歌手や演奏家に引けを取らない歌唱力や堂々とした演奏に、客席を埋めた聴衆から盛大な拍手が送られていました。心に残る素晴らしい演奏会でした。

音楽学部

第35回 名古屋芸術大学
オペラ公演
「ヘンゼルとグレーテル」

2013年2月21日(木)、名古屋芸術創造センターで、第35回を迎える名古屋芸術大学オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」が上演されました。

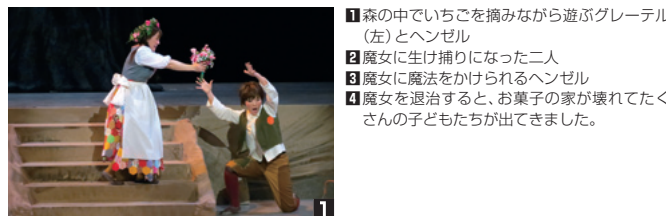
名古屋芸術大学は、1979年に初めてオペラを上演して以来、毎年積極的にオペラ公演に取り組んでいます。今回の「ヘンゼルとグレーテル」は、グリム童話に収録されている作品で、エンゲルト・フンパーディングが作曲した全3幕の子どもから大人まで楽しめるオペラです。2003年以来10年ぶりの上演となりました。

1600年初頭にイタリアで生まれたオペラは、歌と音楽、芝居の要素から構成される総合芸術です。演奏に合わせて衣装を付けたソリストと合唱団の出演者が、悲喜こ

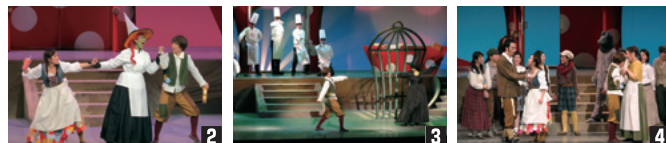
もごものドラマを繰り広げます。

今回の公演は、名古屋芸術大学の総力を上げての上演で、総監督・演出を本学教授の澤脇達晴氏が、指揮を山田正文氏が担当。音楽指導と振り付けは本学教員が、衣装や小道具は美術学部とオペラ研究室が担当しました。

あらすじは、「舞台はドイツの田舎で貧しいほうき職人の家庭。母親にお仕置きで追い出された兄妹が森で道に迷い、疲れ果てて眠ってしまいます。目覚めた二人の前に現れたのはお菓子の家でした。夢になって食べていると、家から魔女が出てきて捕らえられ、ヘンゼルは檻の中に入れられ、グレーテルは小間使いにさせられます。グレーテルは隙を見て魔女の杖を奪い、二人で力を合わせて魔女をかまどに突き飛ばし焼き殺します。すると、瞬間にお菓子の家が壊れて、中からたくさんのお菓子が出てきました。この子どもたちは魔女によってお菓子の



1 森の中でいちごを摘みながら遊ぶグレーテル(左)とヘンゼル
2 魔女に生け捕りになった二人
3 魔女に魔法をかけられるヘンゼル
4 魔女を退治すると、お菓子の家が壊れてたくさんのお菓子が出てきました。



されていたのでした。ヘンゼルとグレーテルは魔法を解いて子どもたちを助け、両親とも再会でき皆で喜びました」という内容です。

元々は、ヨーロッパの長く続いた飢饉での、子捨てを題材にした童話であり、子供たちが知恵を使って苦境を乗り越えるサバイバルの教書でもあります。当時の不作為と飢饉を救ったのは、歴史的にはジャガイモの耕作の始まりだったようですが、そうした時代の記憶を伝える話として見ることも出

来ます。19世紀終盤にオペラにもなって、ドイツオペラの傑作に数えられています。

今回の公演は、4年生の学生にとっては最後の大きな公演となりました。4年間の締めくくりとして、これまでの成果を発揮して伸び伸びと歌い演じる姿が印象的でした。

会場を埋めた観客から盛大な拍手が送られていました。

音楽学部

名古屋芸術大学
アンサンブル・
フィラルモニク・ア・ヴァン
第14回 定期演奏会

2013年2月27日(木)、愛知県長久手市文化の家 森のホールで、「アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン」第14回定期演奏会が開催されました。

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァンとは、吹奏楽オーケストラを意味する言葉のとおり、吹奏楽によるブラスオーケストラの多彩な響き、ニュアンス豊かな

表現をお届けする、本学の音楽学部学生による演奏会です。

演奏会は2部構成で、例年のように、第1部はマーチングステージと学生による編曲・作曲作品の演奏パートです。オープニングのマーチングステージでは、「6人の打楽器奏者のための“ジャグラー”」(作曲/高橋伸哉)の演奏に乗って、学生たちによる軽快なマーチングステージが披露されました。今年は楽器を持たないマーチングスタイルにトライ。この新しい試みに、観客たちも驚いた様子でした。続いて、学生たちが挑戦する編曲・作曲作品の演奏です。



1 互いの演奏を讃えあうヴァン デル ロースト氏と小野川氏
2 ヴァン デル ロースト氏の指揮による演奏
3 オープニングのマーチングステージ
4 編曲・作曲に挑戦した5人。蒔田君、矢野君、片桐君、田村君、塚田君(左から)

今回チャレンジする学生は、過去最多の5名がエントリー。最初に指揮を揮った塚田君は「2つのロマンスより“ロマンス”鐘」(作

曲/C.ドビュッシー)を選曲。2人目の田村君は「華麗なる大円舞曲」(作曲/F.ショパン)で、流麗なワルツの調べを聴かせました。

3人目の片桐君は、軽快に「歌劇『カルメン』より“ハバネラ”“トリアドル”」（作曲/G.ビゼー）を指揮。そして、4人目の矢野君は「パールギュント第1組曲より1.朝4.山の魔王の宮殿にて」（作曲/E.グリーグ）で会場を大いに盛り上げました。ラストを務める蒔田君は、自ら作曲したオリジナル曲「吹奏楽の為の『Agitation』」を披露しました。

第2部は、本学講師も務める小

野川昭博氏を迎えての演奏でスタート。本演奏会のゲストコメンテーターで、作編曲家の鈴木英史氏の作品「ファンファーレ“レジェンド・ワン”」と、D.ブロッセ作曲の「タンタン-太陽の神殿」の2曲で、華麗なタクトさばきを披露しました。続いて、本学客員教授でもあるベルギーの作曲家、ヤン・ヴァンデル ロースト氏の指揮により、自身作の「クレセント・ムーン」と、P.スパーク

作曲の「ダンス・ムーヴメント」の2曲を演奏。躍動的なヴァンデル ロースト氏の指揮に、観客たちは目を奪われ、そのダイナミックな音の広がり酔いしました。そして、今回アンコールピースとしてヴァンデル ロースト氏が特別に用意したのは、2011年に東北地方を中心に襲った東日本大震災からの復興を願って作曲した「song of hope」。この曲は、重く悲しい曲調でスタートします

が、曲が進むにつれて明るさに満ちた曲調へと転調。最後は壮大なオーケストレーションに合わせて、希望の未来へと歩みを進めるような力強さを湛えています。このヴァンデル ロースト氏の演奏を讃える、観客からの惜しめない拍手は、いつまでも鳴り止むことはありませんでした。

音楽学部

名古屋芸術大学 オリジナルミュージカル 「Fairy Tales あなたの知らない危ない童話集」

2013年3月10日(日)、名古屋市芸術創造センターで、音楽学部が主催するミュージカル「Fairy Tales あなたの知らない危ない童話集」が上演されました。これは、本学のオリジナル作品で、2007年以來6年ぶりの上演となります。

ストーリーはシンデレラや白雪姫、眠りの森の美女といった、童話の世界の主人公たちが勢ぞろいして歌やダンスを披露します。しかし、みんなが知っている童話の

主人公たちとは、ちょっぴり性格や行動が異なっていて、なんだか妙な感じが……。この怪しく不思議な物語の演出・脚本を手がけたのは、本学ミュージカルコースの教授森泉博行氏です。森泉氏はブロードウェイ作品の演出、シェイクスピア作品のミュージカル化など、多くの創作ミュージカルの作・演出を担当。更には、東宝、松竹、ジャニーズなどのステージを手がけています。その他にも、作曲、振付、演奏のすべてを、名古屋芸術大学の教員や学生たちが担当しています。

ミュージカルコース4年生の卒業公演でもあるこのステージを、最高の舞台にしようと、出演キャ



- 1 シンデレラ、白雪姫、眠りの森の美女がなんと三姉妹で登場
- 2 童話の世界を見にきた不思議の国のアリスとラビット
- 3 他にも、親指姫、赤ずきんちゃんにオオカミなど、童話の主人公たちが勢ぞろいして歌とダンスでステージを沸かせた
- 4 カーテンコールではミュージカルコース4年生のファイナルステージも



ストをはじめ、舞台スタッフ、演奏を務めた竹内雅一教授率いる名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの面々も全力で臨みました。カーテンコールでは、ミュージカルコース4年生がステージに立ち、

名古屋芸大生としての最後の歌とダンスを披露しました。会場を埋め尽くした観客からは「ブラボー」の声援とともに、割れんばかりの拍手が彼女たち、スタッフたちに送られました。

人間発達学部

人間発達学部主催 「春を呼ぶ 芸術フェスティバル」

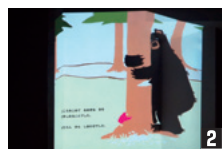
2月16日(土)、本学東キャンパス3号館ホールで、人間発達学部主催の2013年春を呼ぶ芸術フェスティバルが開催されました。このフェスティバルは毎年早春のこの時期に開催されているもので、今回で3回目になります。人間発達学部の3年生が授業やゼミナール・サークルで、あるいは個人での研鑽の結果、積み上げた演奏やパフォーマンスの成果を披露する機会です。合わせて、4年生と退職される先生へのはなむけ、また、新入生への人間発達学部の紹介の機会にもなっています。学生自信

の手で企画運営されるこのフェスティバルは、合唱から楽器の演奏、ピアノの連弾、吹奏楽やバンド演奏、ダンス、パフォーマンス、リズム体操、和太鼓演奏など、盛りだくさんの内容で構成されています。

プログラムは第1部と第2部に分かれて行われました。第1部では、三輪先生と愉快な仲間たちによる合唱を皮切りに、星野ゼミ生による合唱と星野先生のピアノソロ。続いてピアノ連弾。そして、「音楽環境デザイン」学生の絵本読み聞かせで、「ハグくまさん」と「すてきなすてきなアップルパイ」が映像を映しながら語られました。最後は、「音楽科指導法」履修生による大合唱で、「四季のふるさとメドレー」と「旅立ちの



- 1 音楽科指導法履修生による合唱
- 2 絵本読み聞かせ「ハグくまさん」のシーン
- 3 Noise Bandによる演奏
- 4 観客と一体となって行われたリズム体操



日に」が歌われました。

第2部は、クラブやサークルの活動を発表する機会も兼ねたもので、Noise Bandによる吹奏楽演奏、リズム体操部による演技「ジャンプdeゴー」、ダンスサークルのヒップホップダンスがあり、その後、大島ゼミ生によるクラシック

バレエ、中音部(3センチ)のバンド演奏、そして、和太鼓部による和太鼓演奏で終演となりました。リズム体操は出演者と客席が一体となって行われ、とても和やかで楽しいフェスティバルとなりました。

美術学部

デザイン学部

第40回 名古屋芸術大学 卒業制作展/作品講評会・ 卒論発表・映像作品上映会・ 記念講演会

第40回目を迎えた名古屋芸術大学卒業制作展は、2月19日(火)～

24日(日)まで、愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、本学西キャンパスの3会場で開催されました。

期間中各会場では、美術学部・デザイン学部のコースごとに、本学担当教員及びゲストの作家による作品の講評会が実施され、卒業

作品をプレゼンテーションした学生に対して、ゲストや担当教員から様々な批評やアドバイスが送られました。

また、愛知芸術文化センター12階のアートスペースE・Fでは、期間中、映像作品上映会も実施されました。

2月23日(土)には、美術文化コースの優秀卒業論文発表会および、大学院美術研究科美術文化領域修士論文発表会が愛知芸術文化センター12階のアートスペースでありました。

また、毎年行われている記念講演会は、本年度は、東京藝術大学

大学院映像研究科教授の佐藤雅彦氏により、「作り方を作る」と題した講演が行われました。佐藤雅彦氏は、独自の考え方や方法で、映像・アニメーション・グラフィックデザインにおける新しい表現方法を開発。さらには教育手法の研究と開発、脳科学と表現の研究など、分野を超えた幅広い活動を行っています。朝日広告賞最高賞、ADC賞グランプリ、毎日デザイン賞、スロバキア・ドナウ賞、ニューヨークADC賞金賞など、国内外で多数の賞を受賞。最近では、書籍「日常に潜む数理曲線」で、2011年度日本数学会賞出版

賞を受賞。また、2012年には、テレビ番組「2355/0655」でD&AD賞と、平成23年度芸術選奨を受賞されています。

今回の講演では、その佐藤雅彦氏より、映像を用いてコミュニケーション・デザインの本質が解き明かされました。会場を埋めた来場者の真剣に聴き入る姿が印象的でした。

卒業制作展とその関連イベントには、本学関係者はもちろん、一般の来場者を含めて大勢の方々が訪れ、学生たちの思いを込めた作品を鑑賞していました。



- 1 愛知芸術文化センターアートスペースX会場
- 2 名古屋市民ギャラリー矢田会場
- 3 名古屋芸術大学アート&デザインセンター会場
- 4 卒業展評議会風景(愛知県美術館ギャラリー)
- 5 優秀卒業論文・修士論文発表会の様子
- 6 記念講演会風景

美術学部 デザイン学部
第17回
大学院美術研究科・
デザイン研究科修了制作展

第17回の名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の修了制作展が、2月26日(火)~3月3日(日)まで、名古屋市民ギャラリー矢田で開催されました。

この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽

を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻では、絵画研究(日本画制作)と絵画研究(洋画制作)、造形研究(彫刻制作)と造形研究(工芸制作)、美術文化研究(芸術学・美術史、芸術環境)及び同時代表現研究の各専攻生が、2年間の集大成である自己表現としての作品を展示。

デザイン研究科デザイン専攻は、ライフスタイルデザイン研究、ク



美術研究科美術専攻

デザイン研究科デザイン専攻

ラフトデザイン研究、3Dデザイン研究、メディアデザイン研究、各専攻生の感性と専門分野の知識に裏付けられて表現された作品が

展示されました。見ごたえのある作品が展示された会場では、期間中、大勢の関係者が訪れ熱心に鑑賞していました。

美術学部 デザイン学部
美術学部コース展と
デザイン学部レビュー展

2013年1月18日(金)から23日(水)まで、名古屋芸術大学西キャンパスのアート&デザインセンターで美術学部のコース展が開催されました。

この展覧会は、美術学部各コースの教育活動の内容と成果を紹介するもので、こうした機会を通じて学生たちの作品を公開展示することにより、美術学部への理解を深めていただくことを目的としたものです。

一方、デザイン学部では、恒例のデザインレビュー展が開催され、1月12日(土)・13日(日)、19日(土)・20日(日)に一般公開されました。レビュー展は、デザイン学部の1年から3年生全員が、1年間の制作活動による全ての作品を、各個人ごとに指定されたスペースに展示・公開し、指導教員からの講評を受けることで、年間を通しての自らの取り組みを顧みるものです。西キャンパスの体育館の1・2階と、デザイン学部X棟の1階ギャラリー・和室・プレゼンルーム及び3階の教室を使って展示公開されました。



- 1 美術学部コース展(A&Dセンター)
- 2 デザイン学部レビュー展(体育館1階)
- 3 同 体育館(2階)
- 4 レビュー展(X棟3階)

これらの催しは、美術学部・デザイン学部にとって共に、一年間の教育内容とその成果を公開する展覧会といえるもので、期間中は、

学生たちの友人や家族をはじめ大勢の来場者で賑わいました。

Column NUA No.20

「VS 情報」

人間発達学部教養部会准教授 加藤智也

スマートフォンなどの携帯端末が普及し、私たちはいつでもどこでもあらゆる情報を得られるようになりました。非常に便利な世の中になったことは間違いありませんが、ネット上にあふれる情報量に圧倒され、さらにはメール、サイト、ブログ、TwitterやFacebookなどのチェックも義務感からされるなど、逆に情報に苦しめられている人も少なくないのではないでしょうか。こうした「情報過多」という現象により、さまざまな弊害も生

じています。

過去に遡れば、未来学者として名高いアルビン・トフラー(Alvin Toffler)が、インターネットの原型となった軍事研究用ネットワーク「ARPANET」が誕生して間もない1970年に、著書「Future Shock」において40年後の世界について「デジタル革命」、「情報社会の到来」など輝かしい未来を予見しています。しかし、そのなかで「情報オーバーロード(Information Overload)」について危惧しており、情報



過多によって人間の判断能力は著しく低下し、強いストレスを生じさせるとしています。

時代はようやくトフラーに追いつき、IT技術の発達によりさまざまな恩恵を受ける一方で、消費できる情報量の限界をはるかに超えた情報爆発にさらされるようになりました(総務省情報通信政策局「平成18年度 情報流通センサス報告書」より)。ソーシャルメディアにより個人の情報生産が一般化した現在に至っては、選択可能情報量と消費可能情報量の格差がさらに広がっていることは疑う余地はないでしょう。日本IBMの調査(2012年)によると、日々生成されるデータ量は、全世界で2.5エクサバイト(25ギガバイト容量の

保専の改革

4年間副校長を勤め、この4月より校長を拝命いたしました。関係各位のご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。

加藤見前校長のもとでいくつかの改革を行ってきました。経営の根幹に「一人ひとりの学生に愛情をもち、きめ細かく支援を続ける」を置き、教職員全員で指導に当たってきました。結果的に退学者が減り、入学希望者が増えてきました。本年度入学生は、保育科昼間部・夜間部とも定員を超えました。保育科の在籍者は4年前と

比較し1.2倍になりました。

最も効果があがったのは、退学者の多かった保育科昼間部を2クラスに分けて学級編成を行い、可能な限り少人数（半数30名程度）での授業を行う体制を作ったことです。先生方一人当たりの授業時間は増えましたが、入学当初の授業の抵抗感を少し軽減する効果がありました。24年度卒業の一つのクラスは、2年間、退学者が一人も出ませんでした。

また、隣接する滝子幼稚園での1年時の実習（隔週1日、年間10日）を幼稚園の先生方の協力により、きめ細かく進めるようにしてきましたこと。「幼児教育に携わりたい」という入学当初の学生の夢や願いを、純真無垢な園児や献身的に働く幼稚園教師との新鮮な出会いが膨らませていったのです。

こうしたことにより授業や実習に取り組む姿勢が大きく変わってきたと思います。

さらに、就職指導の充実も挙げられます。公立受験者が少しずつ増えるとともに、受験者の半数近くが1次試験を突破し、2次3次へと進むことが出来るようになってきました。（最終的には23年度は4名、24年度は2名の合格）私立園の就職も好調で、希望者全員が夢を叶えて卒業しています。

改革を進める中で、最も大切だと感じたことは、一人一人の教職員の学生に対する接し方です。制度をいくら変えても、指導者自身の心の改革が無くては、学校は変わらないと改めて思いました。

今後は、学生の実態に目を向け、入学した学生に合った授業内容、授業方法の具体的な研究が必要で

あると考えています。

また、担任を中心にして一人ひとりの学生の意欲の喚起を常に心がけ、ねばり強く指導に臨む体制を強化していきたいと思っています。

校長 藤澤 卓美



「風光り すなはちもの みな光る 鷹羽狩行」

陽光が、暖かく射し入っています。木造りの、ぬくもりある園舎には、あそびはじめた子どもたちの声が賑やかに溢れています。平成25年度の春。新しいはじまりです。

このたび、クリエ幼稚園に着任いたしました、安部 孝（名古屋芸術大学人間発達学部）です。当学院における幼児教育の歴史と伝統、そして歴代の園長先生や諸先生方の築かれた功績を前に、今、身の引き締まる思いです。何とぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、しばらく教員として生活しているからか、ここ数年、学校や幼稚園で子どもたちの顔を見たときに、どうしたわけか、

「この子、…どこかで会ったような—〇〇で担任をした、〇ちゃんに似ているなあ…」

などと、ふと、思うことがあります。そして、ひとたびそんな気持ちになると、無性にその子に、親近感というか、なにか話しかけてみたいような気持ちがわいてくるのです。そんなとき、一度にはすべてを思い出し尽くせないほどの子どもたちとの出会いの中で、教師はいつも過去を温めてい、また懐かしんでいるということをつくづくと感じます。

（今は今。また、人それぞれであり、一人ひとりがちがうのだから）

などと言いながら、これまで子どもたちから教わったことやもらった喜びを、折々にたぐりよせては、なぞったりして、新しい出会いをいつものように、自然に受け止めている…そんな気がします。そして、子どもと大人（教師）が共に良く過ごすこと・暮らすこと、こ

の何でもないように思えることこそが、本当に大切なのだと改めて考えたりもします。

私は、これまで、格別な教育目標を考えてはこなかったと思います。その時ときに当たり前のことをやりながら、当たり前のことができるようになっていく。本当は、自分が特に教えなくても子どもたちはでき、また、できるようになるのかも知れない。むしろそのことにこそ、謙虚でなければならぬ…そう思ってきました。4月には5歳児みたいだったけれども、翌年3月の修了時には、ちゃんと5歳児になることが何よりなわけです。

いつだったか、自分のクラスの3歳の子、そして、小学2年生の子に、こう尋ねてみました。

「本当は、お家でのんびりテレビを見ながら、おやつ食べていたよね？」

子どもたちは本音を隠しません。でも、すぐそばの「クスッ」と笑

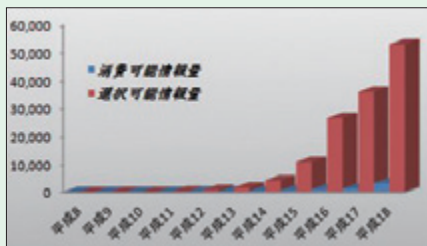
い合い、うなずき合う友だちの存在にも気付いています。およそ教育には、子どものこの二つを大切に、尽くしていくことが求められているのだと思います。またそれは、園での「おはよう！」と、お家での「ただいま！」の間を丁寧に繋ぎ、普段どおりの生活を紡ぐことと言えるのかも知れません。

子ども一人ひとりが、「お家がすき」「幼稚園もすき」。「お家の人がすき」「先生も友だちもすき」。そして、「自分がすき」と思える幼稚園でありたいと思います。

園長 安部 孝



ブルーレイディスク換算で約10億枚)にもものほり、そしてこれまで人類が生成してきたデータの90%はこの2年以内に生成されているとのこと。



このように、私たちを取り巻く情報の量は、歴

史に類を見ない速度で増加しており、10年前に比べて軽く50倍を超える情報を処理しながら生活しているといわれています。膨大な情報にさらされて脳が慢性的に疲弊することにより、意思決定能力・集中力・生産性が低下することが明らかとなり、さらには強いストレスでうつ病になる人が増えてきました。そして、可能な限りの情報に目を通した上で最善の決断をしなければならないと考える完璧主義者ほどこの傾向が強いようです。際限なく存在する情報の中からどれだけ集めたとしても決して十分ということはなく、玉石混濁な情報を集めれば集めるほど状況が混乱して意識の集中を妨害し、かえって判断の根拠を希薄なもの

としてしまいます。そして、いつしか情報を収集すること自体が目的化することで自ら考えることを無意識のうちに放棄し、ものごとの本質に迫ることができなくなる危険性もあります。

トフラーの予見があったにもかかわらず未だ対処できていないのは、知らず知らずのうちに人々がこの「情報過多」に蝕まれ既に抜本的な解決手段を見いだせない状況に陥っているからかもしれません。私たちが情報を使いこなすのか、あるいは情報が私たちが翻弄するのか…さあ、みなさんは今後ますます増え続ける「情報」とどう対峙していきますか？

マスター



アーティスト

【第20回】



もともとは台所だった場所を改装してアトリエとしている。天井を吹き抜けにし、大きな作品も制作できる。「ちょっと直すつもりが、気がついたら朝。ときどきあるんですよ(笑)」

< 夢中に、流れるままに、 >

神戸峰男 美術学部長

(かんべ みねお)

- 1944年 岐阜県生まれ
- 1963年 武蔵野美術大学造形学部 清水多嘉示、木下繁に師事
- 1967年 武蔵野美術大学彫刻科卒業
- 1983年 日本彫刻会運営委員
- 1988年 名古屋芸術大学教授
- 1996年 日展 評議員
- 2002年 中国新疆芸術学院 客員教授
- 2009年 公益社団法人日展 理事
- 2011年 公益社団法人日本彫刻会 理事委員長
- 2012年 日本芸術院会員



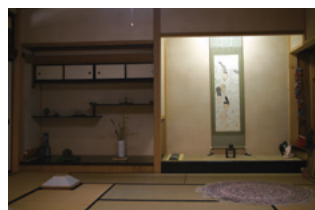
土岐市と可児市の境界のあたり。県道を折れて私道だろうか、車のギアを下げ坂道を100メートルほど駆け上がるようにして登ると、森の中に巨大な建物が現れた。文字通り、山中の一軒家。主は、にこやかに迎えてくれた。

そこここに作品が置かれ、さながら美術館である。純和風建築でありながらどこかモダンに感じる建物は、飛騨古川町に在ったものを移設したものだそうだ。明治初期に建てられ、もとは医院として使われていたのだという。普段、書斎として使われていると思しき

掘り炬燵の部屋に通された。隣の床の間には、郷土の画家、前田青邨の軸が掲げられている。明治になって解禁された檜や樺が贅沢に使った柱たちは、100年以上経った今でも、その香りを放つ。

時の流れの大きさと巡り合わせの不思議に、思いを馳せる。「美術の歴史を眺めていると、その大きな流れの中に自分も居るんだなと思いますね。その世界の一端、末席にいて、でも、その流れに棹さしたところでどうなるとも

……」 大学時代、清水多嘉示、木下繁という日本を代表する彫刻家に師事した。当時、学内には三坂歌一郎、井上武吉、山口長男ら、錚々たる顔ぶれが揃っていた。一升瓶を手土産に、自宅やアトリエに押しかけることもしばしばだったという。「清水先生、木下先生のアトリエに作品を運び入れて、黙って

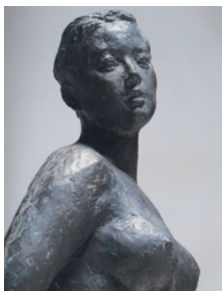




『MISORA』
20×20×20 cm ブロンズ



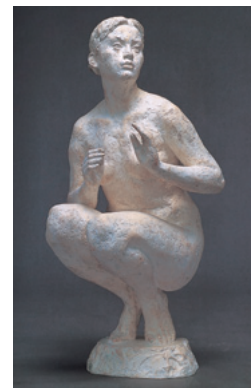
『ターバンの少女』
50×35×35 cm 漆



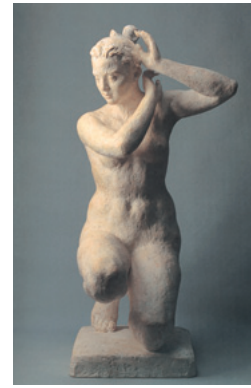
『野』(部分)
(130×40×40 cm)
ブロンズ



『朝』
平成19年度日本芸術院賞受賞 180×55×45 cm ブロンズ



『西の国よりⅢ』
120×60×60 cm 石膏



『戈壁灘Ⅲ』
130×60×60 cm 石膏

- 1968年 第11回日展入選(以後連続入選、日彫会会員)
- 1970年 第13回日展中日賞受賞
- 1974年 第4回日彫展日彫賞受賞
- 1976年 第8回日展特選受賞
- 1978年 第10回日展特選受賞
- 1979年 岐阜県文化特別奨励賞受賞
- 2006年 第38回日展文部科学大臣賞受賞
- 2008年 第64回日本芸術院賞受賞
- 2012年 岐阜県芸術文化顕彰受彰



学生とふれあうことは代え難いことだという。「なんて言うんでしょう、ずっと一緒にいたい感じがするんです。面倒じゃない。皆、立派な人格を持っている。大勢じゃない、一人ひとりなんですよ」学生一人ひとりに可能性を強く感じるのだろう。

毎月、第3水曜日の夜、自主的に集まった学生やOBで行う勉強会の「三水会」。年を追うごとに、いい形になってきたと話す。「群れるための会じゃないということを明確に打ち出してから、参加する学生が増えてきた。彫刻だけでなく、陶芸やパッチワーク、いろんな人が来た。面白い会になってきた」



見ていただいているだけで、自分の作品の欠点に気付いていくものです」清水から「彫刻」を、木下からは「制作への姿勢」を学んだという。アトリエの作品たちは、アントワーヌ・ブールデルー清水の流れを汲み、瑞々しく立っている。

「大きな流れの中において、そこで大事なことは『個』であること。『個』でなきゃ、一人であることが大事。あえて言えば、『個』であるために必要なことはやってきましたね。自分の『かたち』が言えるようになるためには、作品が構造的意志を持たなければいけない。言葉としての作品を大切にしたい」

彫刻作品は、長い生命を持っている。古代文明の多くの彫刻群が、作者はわからぬまま愛され続け、今も人を魅了し続ける。歴史を突き通すように、形を変えず彫刻はあり続ける。そのためか、彫刻家と呼ばれる人間の視線は、他の芸術家よりも遠くを見ているように思うことが多い。その言葉は、いつも原点に立ち返り、本質を射る。

「問題はいつも自分自身です。その問題に、正直に向かうこと。目の前に現れた現象に対して、正面から捉えればいい」夢中に、流れるままに、やってきただけという。思う結果と違うかもしれないが、それでも結果は出る。そしてそれを運命だと思って受け入れ



自分は自分の仕事をすればいいと、思っていたのに4年は短すぎる。夢中になれることと覚悟を決めるまでは長くかかって当たり前でしょう。

る。ただし、いつも夢中でいられるように、自分の問題に真摯でいる。最も難しいことが、じつは一番簡単で、最も遠回りが一番の近道じゃないかと、優しくも厳しく、問いかけ続ける。



※順不同、報告のあったものの中から、誌面の関係で一部だけを掲載しています。

『アワード』

■第4回 東京国際音楽声楽コンクール

【入選】ソプラノ

音楽学部
音楽教育学科卒業
五十君 綾子さん

■第4回 東京ピアノコンクール

【大学部門 第1位】

音楽学部
ピアノコース
碓 大知さん

■クオリア音楽フェスティバル

第3回オーディション

【大学生部門 第1位】

音楽学部
ピアノコース
首藤 友里さん

■アーツチャレンジ2013

【入選】

大学院美術研究科
同時代表現研究<洋画>修了
浅井 雅弘さん
大学院デザイン研究科
クラフト研究修了
柏井 裕香子さん
デザイン学部
メディアデザインコース卒業
菅沼 朋香さん

■トーキョーワンダーシード2013

【入選】

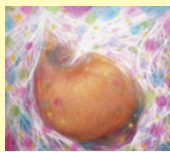
美術学科
洋画2コース
森田 美里さん



大学院
美術研究科
同時代表現研究
<洋画>
亀井 梓さん



大学院
美術研究科
同時代表現研究
<洋画>
鷲野 友香さん



大学院
美術研究科
同時代表現研究
<洋画>修了
鈴木 浩之さん



■第20回 アイリス生活用品 デザインコンクール

【学生奨励賞】

デザイン学科
プロダクト&スペースブロック
川田 文香さん
デザイン学科
プロダクト&スペースブロック
北川 美鈴さん



「coro∞」
川田 文香

「WIPUSH」
北川 美鈴

出 Books 版 教員著作(翻訳)の出版物のご紹介です。

(編集期限までに報告されたもの)



岸野俊彦
(名古屋芸術大学音楽学部
教養部准教授)編著
『尾張藩社会の総合研究
第5編』
(清文堂)



茶谷 薫
(名古屋芸術大学音楽学部
教養部准教授)監修
『シンボニカ学習帳 社会
10mmマス』とても足の速い
バスタモンキー』
(小学館監修百科シリーズ)

アート&デザインセンター 2013年度前期 展示会スケジュール(予定)

4月 3日(水)~4月17日(水)	2012年度デザイン学部レヴュー選抜展
4月19日(金)~4月24日(水)	齊木俊秀 作陶展(仮称)
4月19日(金)~4月24日(水)	sabbat
4月26日(金)~5月 8日(水)	6次元~パラレルワールド~
4月26日(金)~5月 8日(水)	写真部「春展示」
5月10日(金)~5月15日(水)	ラテルナ・マジカ(幻灯);フェロー・諸島から
5月17日(金)~5月22日(水)	テレビンベトロール
5月17日(金)~5月29日(水)	THE MEDAL COMPLEX2
5月24日(金)~5月29日(水)	peace nine 2013
5月31日(金)~6月 5日(水)	創作折紙作品展
5月31日(金)~6月 5日(水)	Yooooooo!!!
5月31日(金)~6月 5日(水)	バVS米
6月 7日(金)~6月12日(水)	5組展
6月14日(金)~6月19日(水)	教員展
6月21日(金)~6月26日(水)	名古屋芸術大学OB・OG展
6月21日(金)~6月26日(水)	メディアデザインコース“展示会デザイン”展
6月28日(金)~7月 3日(水)	スペースデザインコース展
6月28日(金)~7月 3日(水)	第4回神戸コレクション展
6月28日(金)~7月 3日(水)	コミュニケーションアート&デザイン展(院)
7月 5日(金)~7月10日(水)	四年生はたいへんだ
7月12日(金)~7月17日(水)	2013年度前期留學生作品展
7月19日(金)~7月24日(水)	洋画1コース3年展
7月26日(金)~8月 7日(水)	素材展
8月 9日(金)~9月18日(水)	2013年度企画展 桑山忠明 Titanium-Art as Space, Space as Art(仮称)

Open / 12:15~18:00
(最終日は17:00まで)
日曜・祝祭日原則休館



※会期 内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
「入場無料」などでも「観覧」いただけます。
お問い合わせ先 / 0568-24-0325

2013年度 オープンキャンパス日程

- 音楽学部
6月15日(土)
9月28日(土)
- 人間発達学部
6月15日(土)
7月20日(土)
8月24日(土)
9月28日(土)
- 美術学部・
デザイン学部
6月15日(土)
7月14日(日)
9月28日(土)
- 大学祭&
ミニオープンキャンパス
10月27日(日)
4学部同時開催

※時間は全日程とも10:00~16:00
※人間発達学部の7月8日実施分は
10:00~13:30



表紙の写真

澤脇 達晴先生
(大学院音楽研究科 声楽専攻)
オペラ「ヘンゼルとグレーテル」リハーサル風景



第35回名古屋芸術大学オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」公演前日、夜のリハーサル。立ち位置や動作、照明、舞台装置も確認、修正する。

この後、公演当日の昼間にゲネプロ(本番同様の最終チェック)を経て本番に。オーソックスなオペラのスタイルにミュージカルの要素が盛り込まれ、楽しいものになった。
(2013年2/20 名古屋芸術創造センターにて)

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2013年4月25日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市庄之町古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。
認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。